

日本美術史講義 7b

2021年秋学期 火曜4限

担当：伊藤 大輔

第8回

【注意】

このパワーポイントスライドは、本講義の**受講者専用**です。

許可無く、複製・公開すること、あるいは知り合いや友人へ転送することは**禁じます**。個人の学習のみに使用して下さい。

違反しますと、**作品の所有者、写真の撮影者、写真の出版元等の権利者**とトラブルになる可能性があります。

トラブルを避け、自分の身を守るという観点から、制限にご協力下さい。

はじめに

今回は、仏教関係の作品から離れて、より世俗的な作品について見てゆきます。検討の対象は、**高松塚の古墳壁画**です。

①高松塚古墳壁画

(1) 高松塚古墳の概要

二段式の円墳

下段の直径23m、上段の直径18m、高さ 5 m

凝灰岩の切石を組んで構築した石室

幅103cm、奥行き265cm、高さ113cm

(それほど広い石室ではないことが分かる。)

図版削除

高松塚古墳外観

①高松塚古墳壁画

(2) 石室内の壁画

東西南北の四壁と天井に壁画が描かれる。

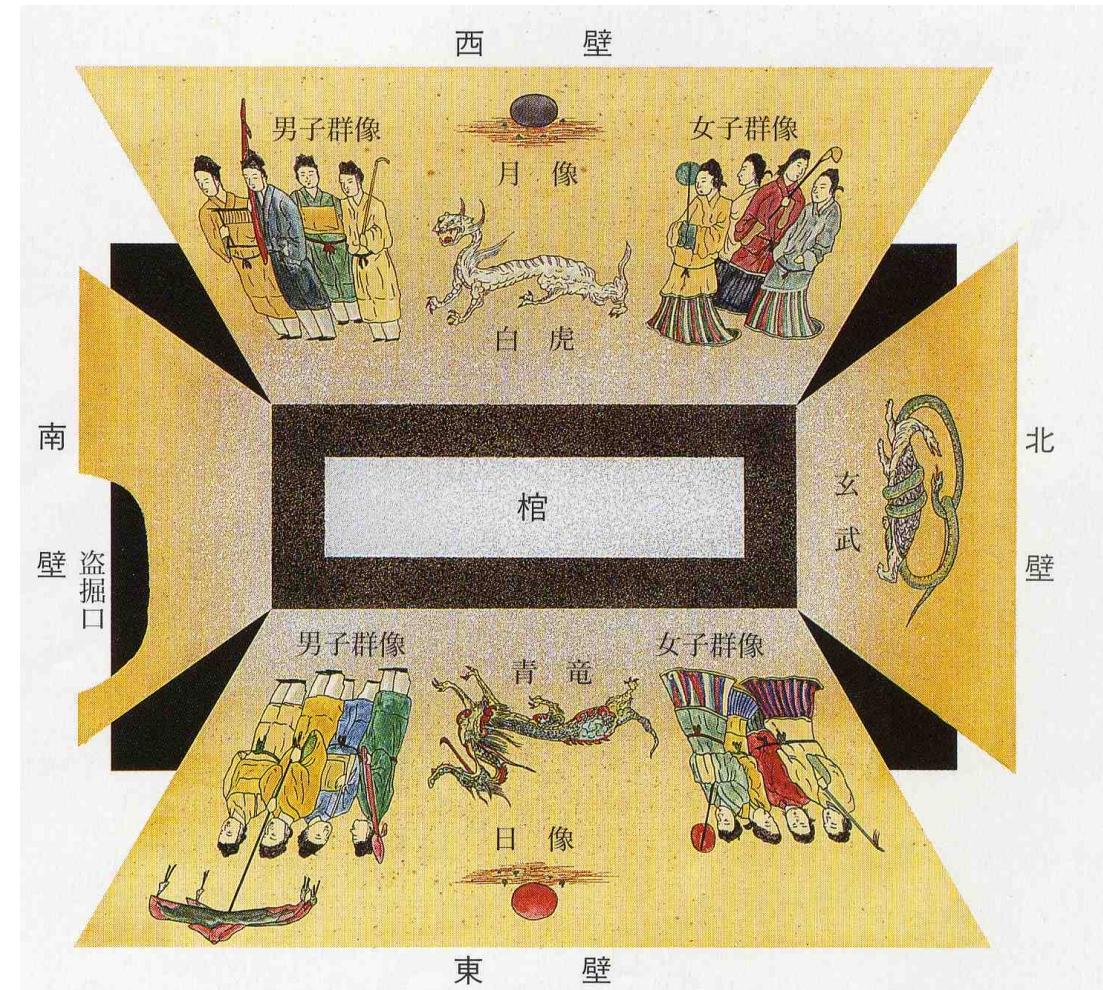
主題は、

四神（青龍・朱雀・白虎・玄武）

日月星宿（天井に星座が示される）

男女群像

※各画面の詳細は、次頁以降参照。



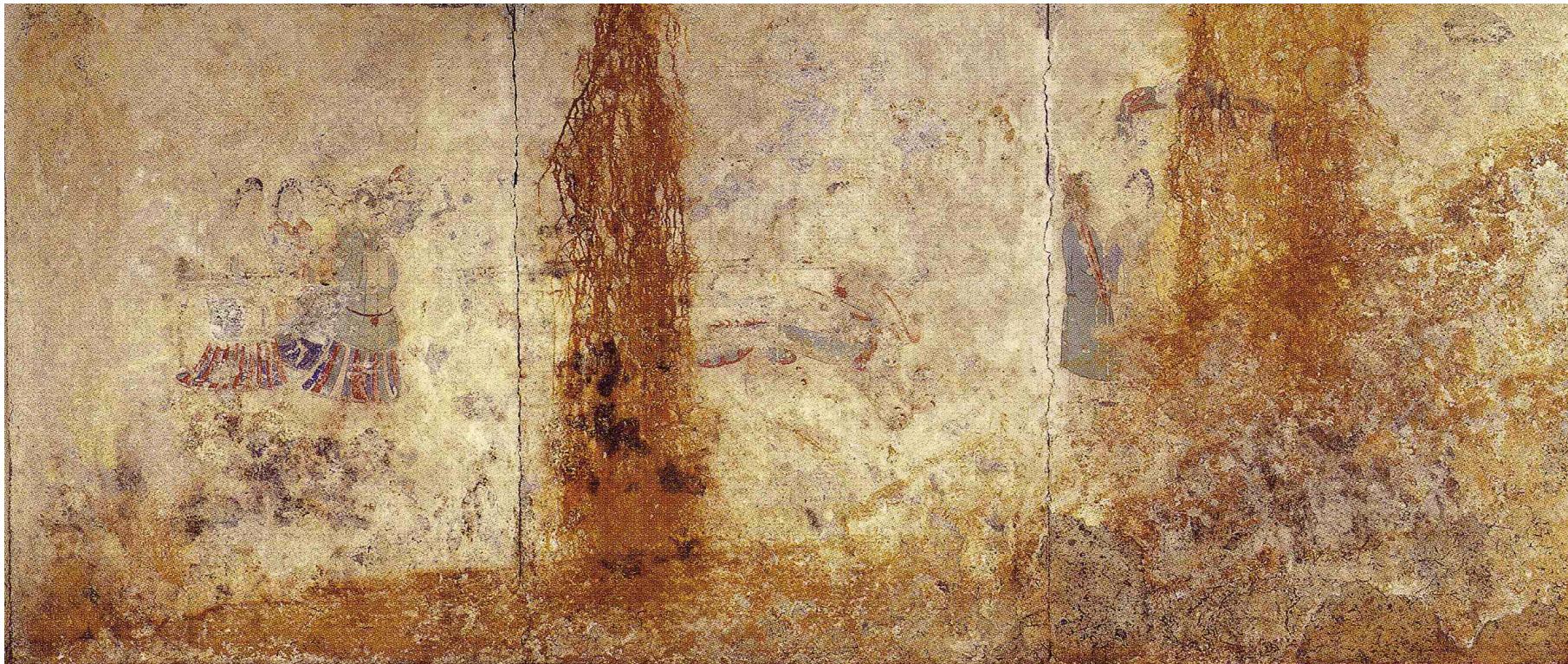
高松塚古墳・壁画見取り図

①高松塚古墳壁画

【まずは、東西南北・天井の各画面を順次鑑賞して下さい】

①高松塚古墳壁画

【東壁】



北

女子群像

日像と青龍

男子群像

南

①高松塚古墳壁画



東壁・女子群像



東壁・男子群像

①高松塚古墳壁画

日象



青龍



日像（太陽の像）
(日像には金箔が貼られるのが通例だが、盗掘により剥が
されている)

①高松塚古墳壁画



青龍

①高松塚古墳壁画

【西壁】



男子群像

白虎と月像

女子群像

南

北

①高松塚古墳壁画



西壁・男子群像

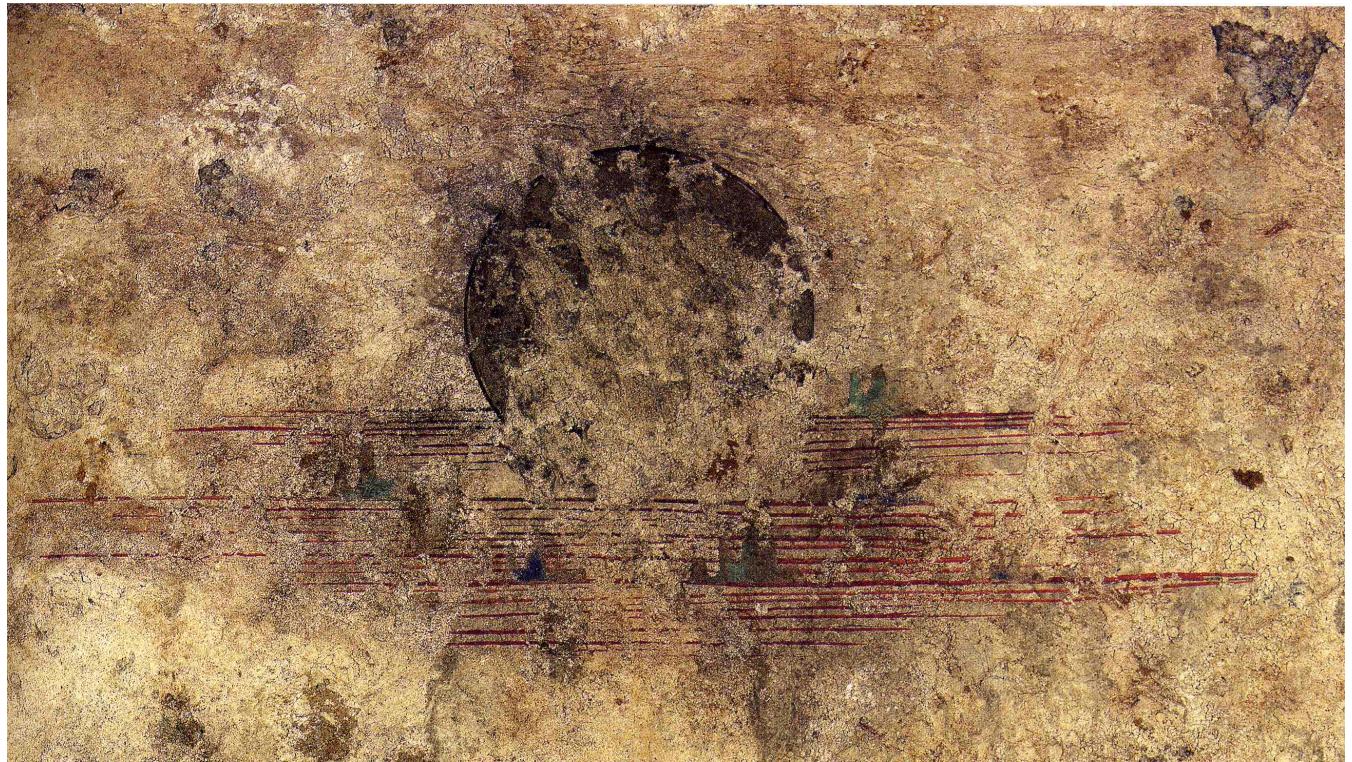


西壁・女子群像

①高松塚古墳壁画



白虎と月像



月像

(月は銀で表現されるが、銀が酸化して黒化している)

①高松塚古墳壁画



国宝高松塚古墳（中央公論美術出版）
監／文化庁、2004

白虎

①高松塚古墳壁画

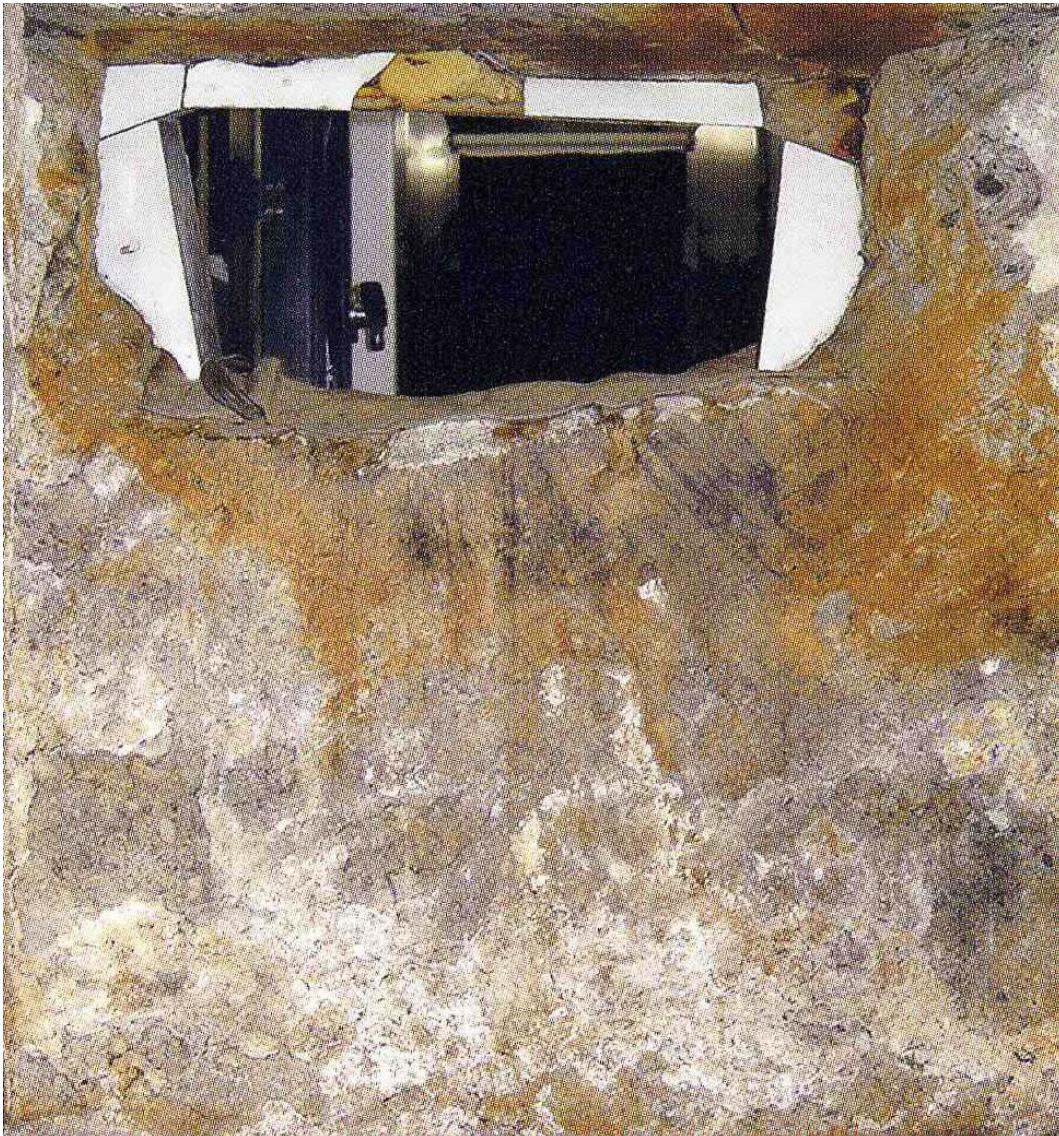


北壁・玄武



国宝高松塚古墳（中央公論美術出版）監／文化庁、2004

①高松塚古墳壁画



南壁は、盗掘口が開かれ、現在壁画は確認できない。
本来は、四神の内、朱雀が描かれていたと思われる。

①高松塚古墳壁画



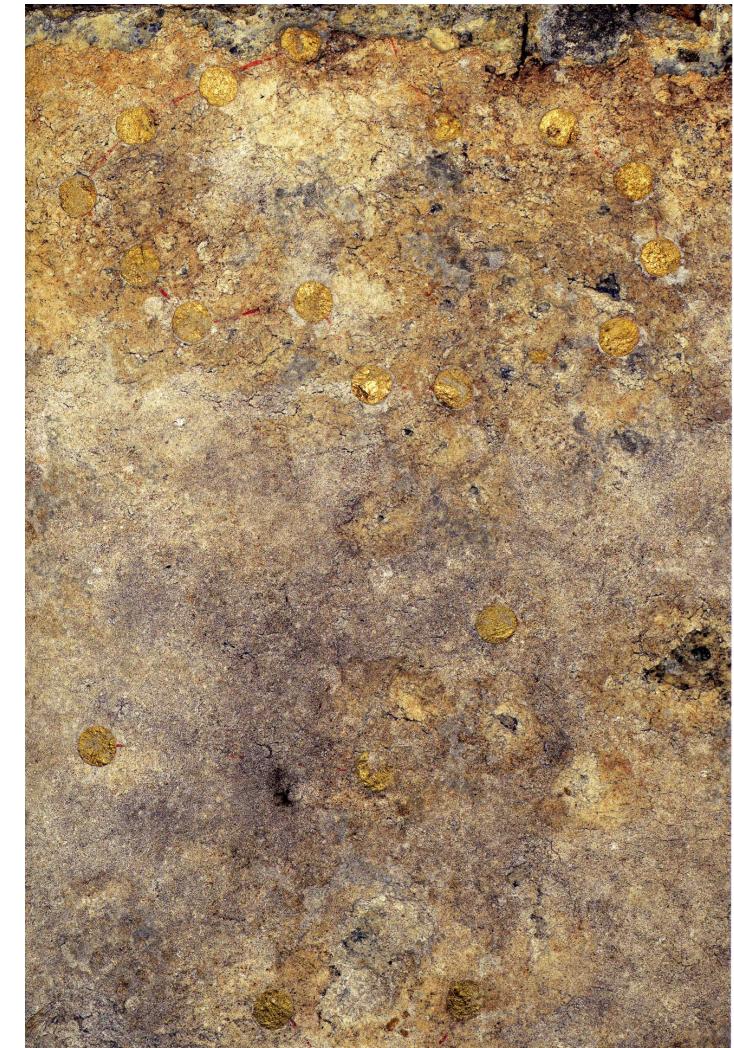
天井:星宿図

中央付近の丸い点が金箔による星の表現

石室の天井は天空世界になぞらえられている。墓の主は星空を眺めながら眠りにつく。

①高松塚古墳壁画

天井の星宿は、直径9mmほどの金箔を貼って星とし、星と星の間を朱線で結んで星座＝星宿とする。



①高松塚古墳壁画

図柄の概要の説明は以上です。

以下のページでは、絵画表現に関する具体的な問題を検討します。

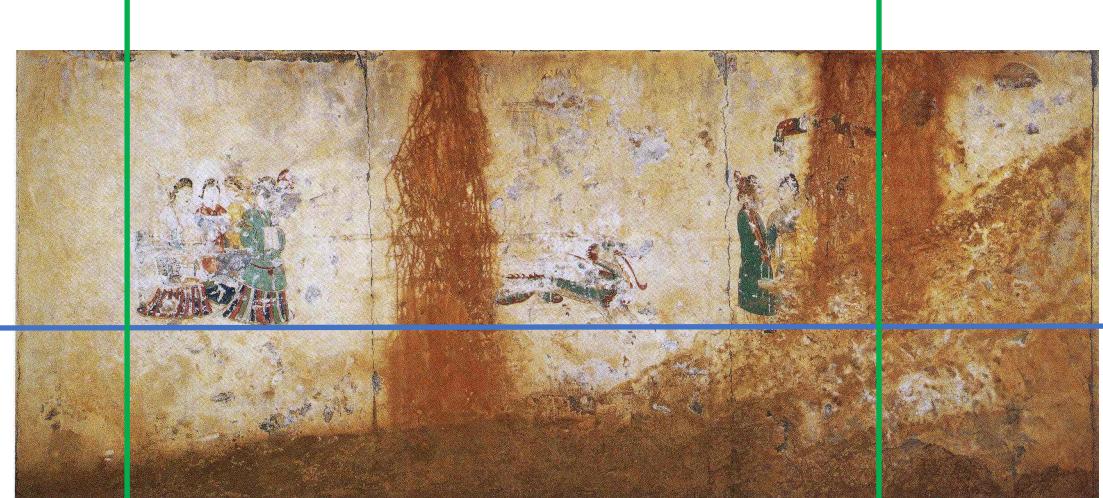
①高松塚古墳壁画

【棺との関係】

東西の壁画の画は、男女・四神（青龍または白虎）の足が同じ高さに揃えて描かれる（床から45cm程度）。

左右の幅（緑の線の間）もほぼ同一であり、統一的規格によって描かれている。

棺の大きさに合わせて位置決めがされていると考えられる。



上：東面 下：西面

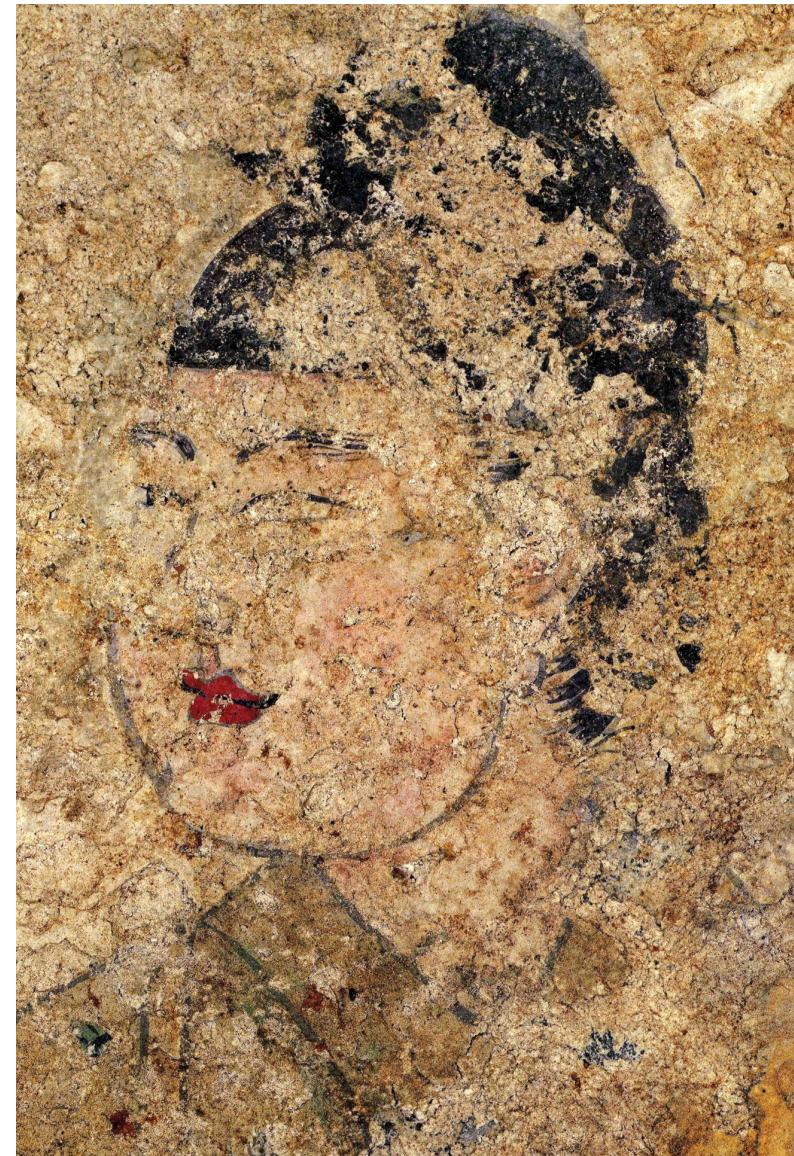
①高松塚古墳壁画

【技法】

1. 法隆寺金堂壁画と同じく、念紙による下図の転写。

※念紙～現代のカーボン紙の要領で下図を上からなぞって、壁面に図柄を写し取る。

2. 淡墨線で人物等の形態を輪郭づける

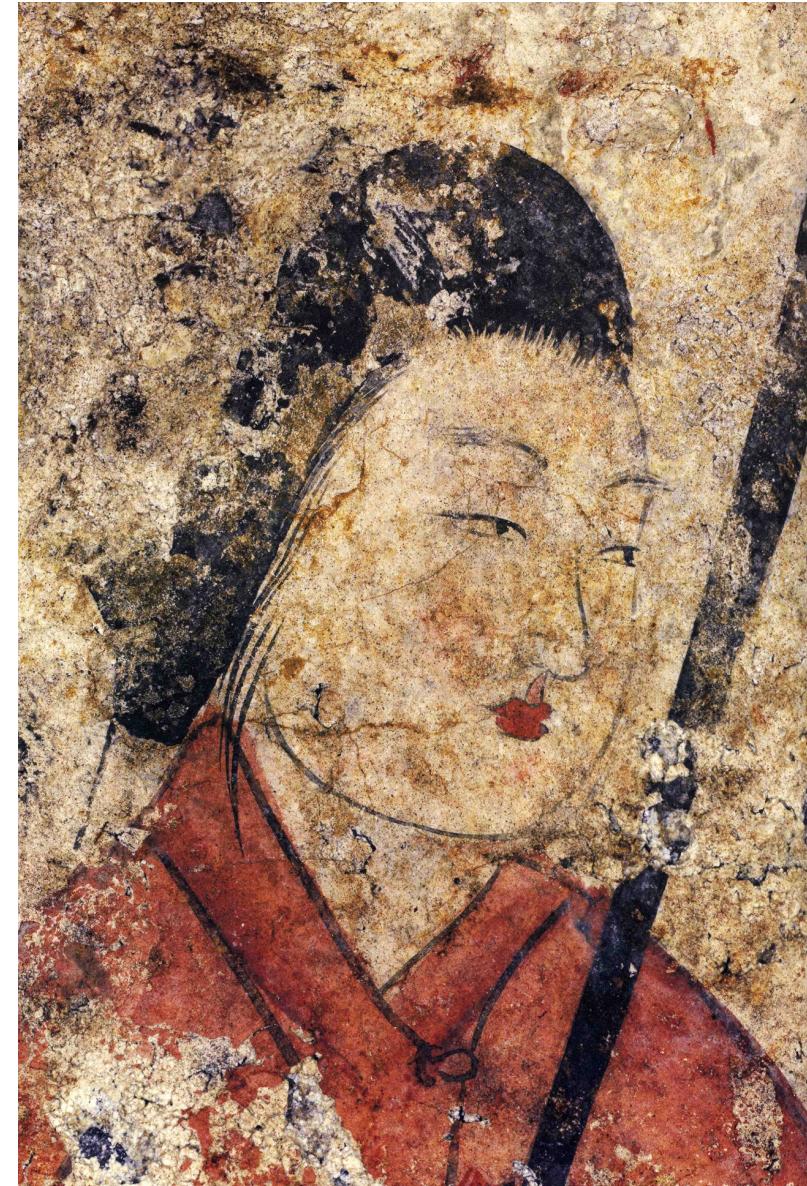


東壁・男子の顔

①高松塚古墳壁画

【技法続き】

3. 肉身は白肉色で彩色し、淡紅色で隈取る。
4. 濃墨線で仕上げの線を描き起こす。



西壁・女子の顔

①高松塚古墳壁画

【同一下図の使用】

法隆寺金堂壁画と同じく、人物や四神は、同一下図を反復して使用しているとされる。

1. 男女人物群像16人の内、斜め向きの者12人・真横向きの者2人・正面向きの者2人は、各々顔の輪郭が一致する（左右反転を含む）。

特に、斜め向きの女子像では、目鼻口の位置も一致するとされる。

※このことから、人物の顔に関しては、基本的に3種の下図に基づいて描かれたと推測されている。

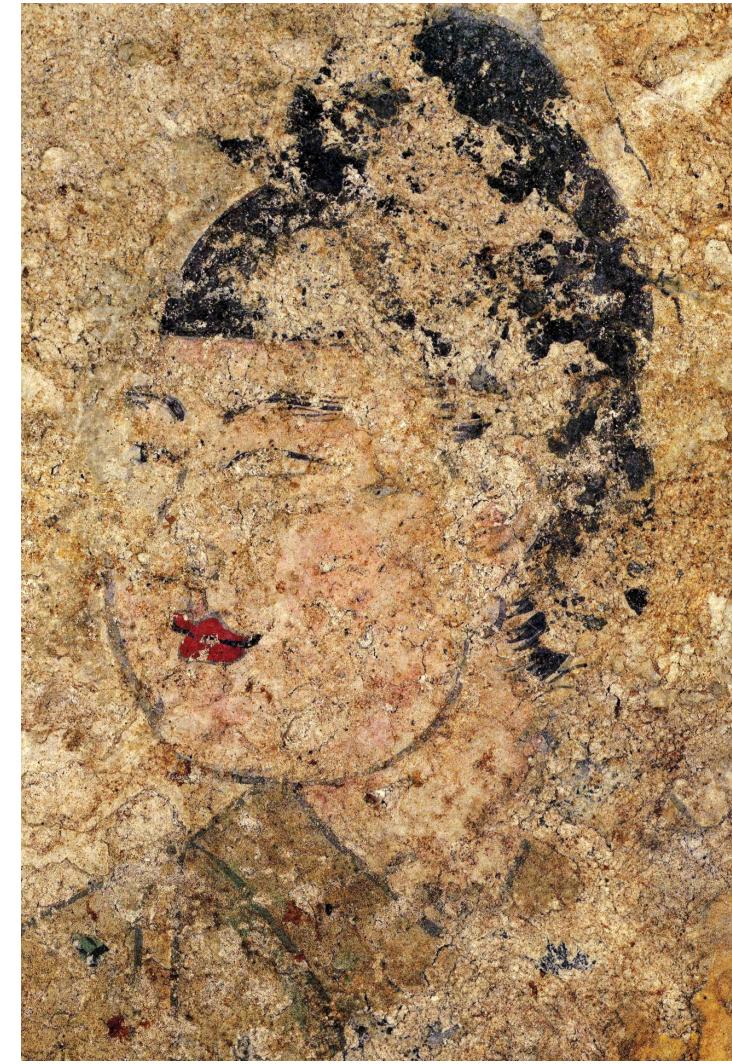
①高松塚古墳壁画



東壁女子



西壁女子

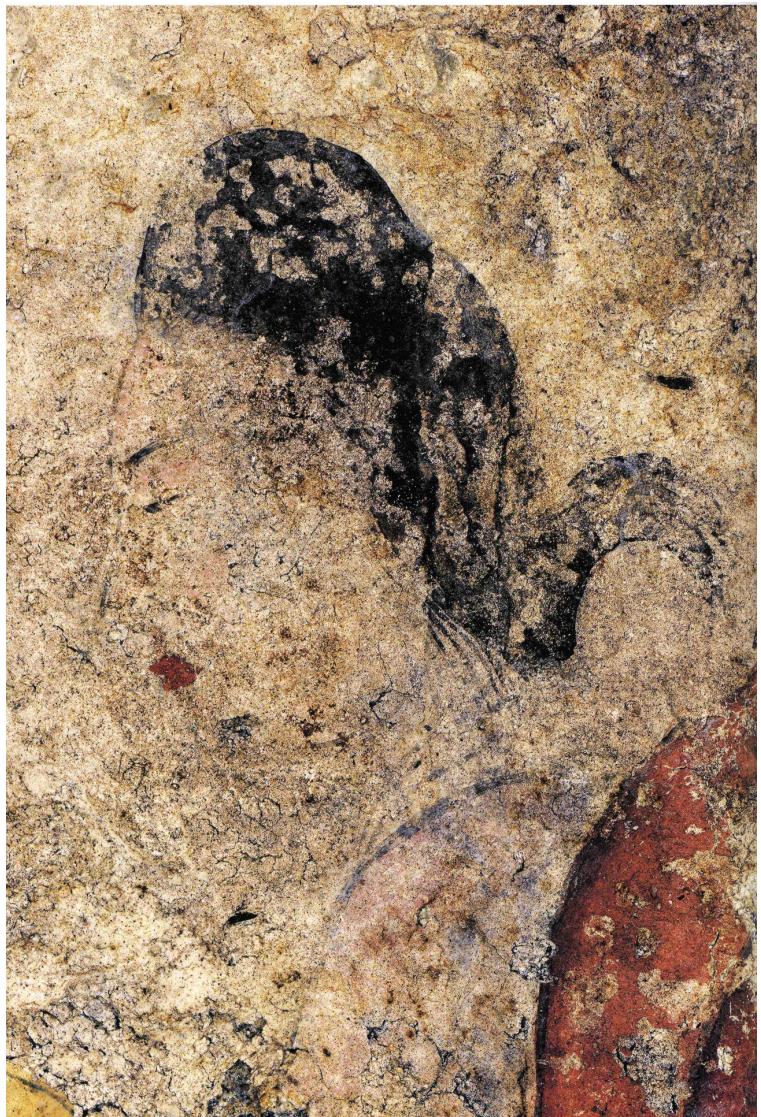


東壁男子

人物の顔の輪郭線は同じ下図を利用している。

国宝高松塚古墳（中央公論美術出版）監／文化庁、2004

①高松塚古墳壁画



西壁女子・真横向きの顔

国宝高松塚古墳（中央公論美術出版）監／文化庁、2004



東壁女子・正面向きの顔

①高松塚古墳壁画

【同一下図の使用・続き】

2. 四神の内、青龍と白虎は、前脚・胴体・後脚の三部分で形態が一致する。全体を三分割し、部分ごとに同一下図を利用して仕上げたと考えられる。

①高松塚古墳壁画



東壁・青龍



西壁・白虎（反転画像）

胴体や前後の脚部で下図が一致するとされる。

①高松塚古墳壁画

【絵師の相違】

下図は、同一のものを用いているが、最終的な仕上げの線描を比較すると、東壁の画家の方が、西壁の画家よりも、線描表現に優れている。

→特に、線描による立体感の表現が巧みである。

このため、東壁の画家が主たる立場であり、西壁の画家が従属的な立場であったと推測される。

①高松塚古墳壁画



東壁・女子群像

国宝高松塚古墳（中央公論美術出版）監／文化庁、2004



西壁・女子群像

それぞれ先頭の女性（緑と黄色）は胸前で腕を輪のようにしているが……、その部分を比較してみると……

①高松塚古墳壁画



東壁・女子の袖

国宝高松塚古墳（中央公論美術出版）監／文化庁、2004



西壁・女子の袖

東壁の方が、しっかりとした筆運び・肥瘦の変化のリズムをつける、といった技法によって、たくし上げられた袖の布の厚みを感じさせるのに対し、西壁の袖の線描は、力なく揺れたような線描で、念紙によって写した下絵をなぞるだけに終始している。

東壁の画家は、観者に示すべき三次元的な立体のイメージが分かって描いているが、西壁の画家はそうではない。

①高松塚古墳壁画

【技法の問題については以上です。】

【次に、高松塚古墳壁画を東アジアの古墳壁画と比較して、その作風の特色について検討してゆきます。】

①高松塚古墳壁画

（3）壁画の歴史的位置づけ

1. 高句麗古墳壁画との関係

〔1〕四神による装飾

墓室の四壁に四神図が配置される例は、7世紀の高句麗の「**江西大墓**・**江西中墓**」に先例が見られる。



これに対し、同時期の唐の壁画では、四神が天空神として扱われることはなく、青龍・白虎のみが墓室に通じる甬道の門を守る**鎮墓獸**として扱われる。

天翔る聖獸としては扱われないという違いがある。

①高松塚古墳壁画



江西中墓・青龍



江西中墓・白虎

①高松塚古墳壁画

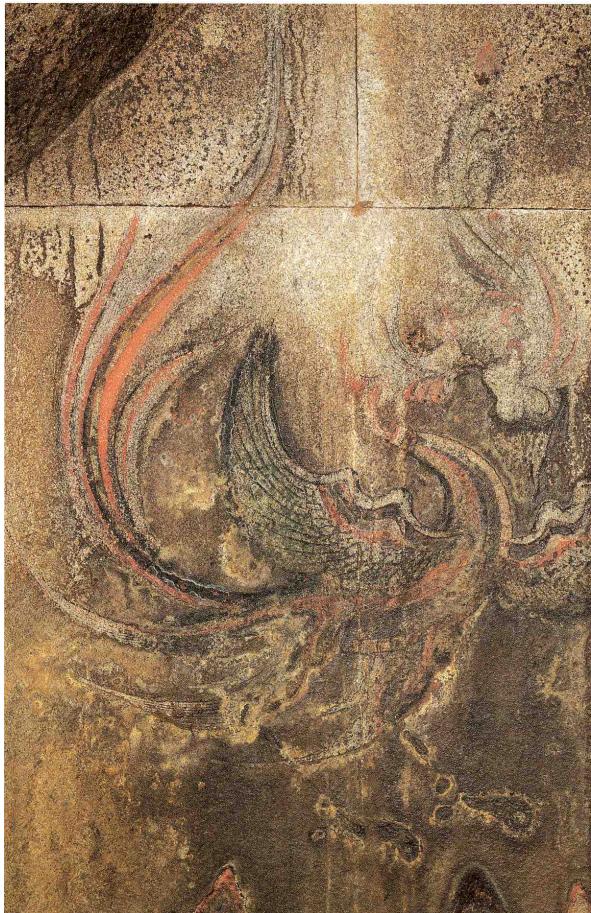


江西中墓・朱雀



江西中墓・玄武

①高松塚古墳壁画



江西大墓・朱雀



江西大墓・玄武

①高松塚古墳壁画

〔2〕星宿図を天井に配する

星宿図を天井に配する先例も、6世紀高句麗の徳花里二号墳
や真坡里四号墳に見られる。

①高松塚古墳壁画



徳花里二号墳のドーム側面



真坡里四号墳天井画・描き起こし

①高松塚古墳壁画

〔3〕高松塚の女子群像の衣服は、高句麗の水山里古墳の侍女群像の衣装と類似する。

①高松塚古墳壁画



水山里古墳・侍女



高松塚古墳・西壁・女子群像

プリーツの入った裳や
拱手するポーズが類似
する。

国宝高松塚古墳（中央公論美術出版）監／文化庁、2004

今回の講義はここまでです。

（3）項で論じた高松塚古墳壁画の歴史的位置づけは、次回講義に続きます。